

六つの華だより

糸魚川市立磯部小学校
平成 26 年 7 月 25 日 (金) No. 6
E-mail isobesho@itoigawa.ed.jp
URL <http://www.itoigawa.ed.jp/isobesho/>



美しい日本海 豊かな自然 子どもたちの笑顔いっぱい磯部小

マナーか？、ルールか？

校長 高橋 雅史



いろいろな辞書で調べてみると，“マナー”は社会のなかで人が気持ちよく生活していくための行動の在り方、態度、礼儀・作法と出ています。一方，“ルール”は公共の利益の保護、秩序の維持のために必要な規則、きまり、規約です。どちらも、人間関係や社会生活が円滑に、そしてよりよく機能するために作り出された規範や決まりといえることができるのではないのでしょうか。

私流の解釈では、「マナーを守りましょう」は、どちらかというとその人の心に訴えて改善しようとする取組、「ルールを守りましょう」は、ペナルティーや規制を前提とした取組だと思います。もちろん、どちらが優れている、劣っているということではありません。

小学校では、教師が「～してはいけない」「～しなければならない」という指導をしたり、約束ごとが守れない時に叱ったり、注意したりすることはよくあります。しかし、罰則やペナルティーで規制することはあまりありません。そういう意味では、小学校はルールよりもマナーを大切にしたい指導をしています。

さて、何年か前にスーパーに買い物に行った時のことです。入り口から離れたベンチに何人かの若者が集まっていた。買い物を済ませてベンチの近くを通り過ぎると、若者達の姿はなく、ゴミだけが残されていました。ペットボトル、食べかけのカップ麺、破れたビニールと散乱したお菓子…。とても他の人がそのベンチで休めるような状態ではありません。知らない若者達ですが、「これまで、学校で“公共の場所や物を大切にしよう”、“ゴミはきちんと始末する”等の指導を何年間も受けてきているはずなのに」と、大変残念に思いました。

この若者達に必要なだったものは、学校や家庭での“心に訴える”マナーの指導だったのでしょうか、“公共の場での飲食禁止”や“ゴミのぼい捨て罰金”などのルールだったのでしょうか。

貸し出し用のボールや図書館の本の返却が悪い時に、貸し出し禁止にするようなことは、ある意味ではとても簡単です。でも、そのルールが本当に子どもたちの成長にプラスになるかというところ少し疑問です。“まわりが気持ちよく過ごせるように”や“他の人のことを考えて行動する”という心が育たなければ、別の所で似たような事をしてしまうのではないのでしょうか。ルールとマナー、どちらのよさも生かしながら、子どもたちの心を育てていくことが大切だと思います。

もうすぐ夏休みです。子どもたちが家庭や地域で過ごす時間が多くなります。ぜひご家庭でも地域でもマナーとルール両方の指導・声かけをお願いいたします。

1学期が無事終了しました。 ありがとうございました!!



平成26年度の1学期が無事終了いたしました。入学式にはじまり、遠足、学習参観、運動会、地引き網、防災教育の日、特別支援教育講演会など様々な行事や活動がありました。保護者の皆様、地域の皆様には、これらの行事や総合的な学習の時間など本校の教育活動に多大なるご理解とご協力、そしてご援助をいただきました。本当にありがとうございました。

今、職員室では、皆様からいただいた学校評価を集計し、2学期以降の取組の改善を図っているところです。それらの結果については、今後お知らせしていきますので、2学期以降も本校の教育活動にこれまでと変わらぬご支援をよろしくお願いたします。

8月の主な行事予定

13(水)～15(金)は、学校無人化となりますので、あらかじめご承知置きください。

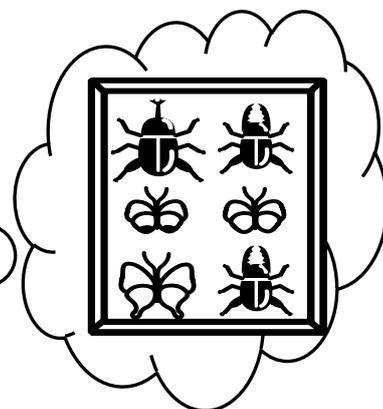
- 20(水) 課外陸上練習開始
- 23(土) いそべの森草刈り(筒石・中郷・徳合・仙納)*雨天延期の場合は30日
- 28(木) 2学期始業式・給食開始
- 29(金) 発育測定・委員会活動



9月の主な行事予定

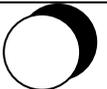
- 1(月) 校内自由研究発表会
- 3(水) 全校朝会
- 5(金) クラブ活動
- 8(月) 全校SST
- 11(木) 子ども貯金日
- 12(金) 委員会活動
- 16(火) 児童朝会(糸魚川市親善陸上大会壮行会)
- 17(水) 糸魚川市親善陸上大会
- 18(木) 糸魚川市親善陸上大会予備日
- 20(土) 奴奈川祭り金管演奏披露(マリンドリーム能生)
- 24(水) 発表朝会
- 26(金) 一日自由参観日
- 29(月) 短縮3限授業、給食後放課
- 30(火) 保育園・小学校連絡交流会

*参加選手は、両日ともお弁当が必要です。





6月・7月の磯部小学校



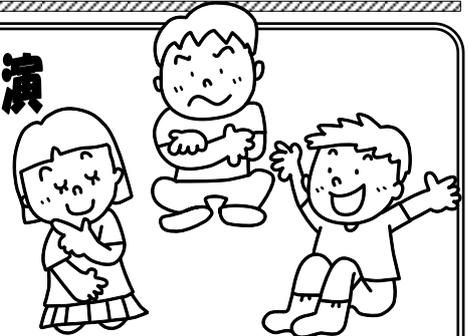
六月二十八日の「いそべ
防災教育の日」に、さまざま
な取組を行いました。



七月三日におじいちゃん
おばあちゃんに学校に
来ていただきました。

校長室から

特別支援教育の講演 をお聞きして



7月11日にPTA主催の講演会を開いていただきました。講演は、特別支援教育の概要や子どもの心の成長・発育の過程、多様な個性のとらえ方などが主な内容でした。

講師としてお招きしたのは、「糸魚川市立ひすいの里総合学校」の佐田東彰教頭先生、演題は「今、求められている特別支援教育～子ども一人ひとりの個性をよりよく伸ばすために～」でした。

子どもたち一人一人に個性や課題(苦手なことやその克服のための手立て)があること、社会で自立していくために大切なこと、よりよい人格形成のための親子のかかわり方など、とても参考になる講演でした。終了後に次々と質問が出て、途中で打ち切らなければならないほどでした。

特別支援教育という言葉には、「障がいの有無にかかわらず、一人一人の子どもの個性・特性・障がいに対応したもっとも適切な指導・支援を行い、どの子どもも社会的な自立ができるような教育を推進する」という願いが込められています。決して特別な支援を必要とする子どもたちだけを対象にした限定的な教育ではありません。あらためて“子どもたち一人ひとりに対応した教育”の大切さを感じることもできる素晴らしいお話でした。



感想文紹介



「いそべ防災教育の日」の倉田智浩さんの講演を聞いた感想文を紹介します。子どもたちがとても真剣に聞いていたことが伝わってきます。



1年 くぼた れみ

ほんとうにかわいそうでした。ともだちも、かぞくもなくなるとかわいそうです。それをみた人は、かなしくて、ほんとうにかなしそうでした。16800人しんで、ほんとうにかわいそうでした。しんだ人は、ほんとうにほんとうに、ともだちをおもいでにしているといいです。

いのちをまもります。みんなのいのちも、じぶんのいのちも、みんなのも、かぞくも、ぜんぶぜんぶいのちはたいせつなのでまもります。

2年 青田 虎輝

東日本大しんさいから3年間たち、まだ全ふっかつはしていないけど、いい生かつをしている人やいろいろなところへ行って生かつをしている人もいます。

全ふっかつをめざしてボランティアをつづけてください。ぼくは、倉田さんが言ったとおり、自分の命は自分でまもります。

1年 ながさき ゆう

こまっている人たちは、かわいそうです。ながされた人たちは、どれだけくるしんでいるか、よくわからなかったけど、ほんとうにくやしくて、さみしくて、とてもかなしくて、こわそうにみえてきて、さみしそうでした。

うみはきけんだなどかんじました。

じぶんのいのちもみんなのいのちもまもりたいから、じぶんがやれることはやりません。

5年 塚田 岳人

つなみで流された人たちのためにも、ぼくたちは自分の命を自分で守らないといけないことがわかりました。つなみで流されて一人ぼっちになった人が悲しんでいることが倉田さんの話を聞いてよく分かりました。

ぼくたちは、つなみで流された人たちの分も、生きて、勇気をもって、強い心をもつようにがんばっていきたいです。倉田さんの話をよく聞いて、勉強になったところが多かったのです。

6年 山崎 志桜

私は、倉田さんの話を聞いて家族や仲間、命をもっと大切にしようと思いました。

映ぞうを見た中で、日菜さんの事が一番心に残りました。私は、よくお母さんやお父さんとけんかをして、あまり「ありがとう」の言葉を言っていないででした。学校から帰るとお母さんがいて、ご飯を作ってくれるのも、当たり前のように過ごしていました。

でも、日菜さんは、「ありがとう」をお母さんやお父さんに言いたくても言えないという事を聞いて、これからはちゃんと伝えたいと思いました。ご飯を作ってくれるのも、私たちのためにやってくれている事なので、当たり前のように思わず、しっかり「ありがとう」を伝えたいです。

5年 塚田 生

ぼくは、倉田さんの話に出てきた女の子の言った「亡くなった人の分まで強く生きていきたい」その言葉が「すごい」と思いました。その言葉のおかげで、人の命の大切さをあらためて知りました。

これからは、自分の命を大切にしたい、それから、他の人の命も大切にしたいです。

今日の倉田さんの話を聞いて、とてもよかったですと思いました。ありがとうございました。

* “亡くなった”ではなく“死んだ”という表現等が使われている場合がありますが、子どもたちの文章なので、そのまま掲載いたしました。